

100円均一・鉄道と連携■次は日高別院

商店街企画で勝負

レトロな町並みが魅力の御坊市の商店街。ここに新しい風を吹き込もうと、地元商店主たちが熱心に知恵を絞っている。100円の商品ばかりを並べる「百円笑店街」を企画したり、「日本一短い私鉄」として有名な紀州鉄道と連携してオリジナルの地図を作ったり。市の内外にファンを広げようと奮闘が続く。



「個人商店の魅力を知るには、まず足を運んでもらうこと」と同連合会理事長で坂井金物店の3代目、坂井和夫さん(61)は語る。坂井さんが中心となり、2011年5月からは「百円笑店街」を企画。ワンコインの気軽さで初めての人も立ち寄ってもらおうのが狙いだ。並べる商品も様々で、メガネ店で野菜を売るケースもあるという。現在は4カ月に1度の開催だ。

「取り組みを続けて定着させたい」と坂井さん。全長約2.7キロで「日本一短い私鉄」とされる市内の紀州鉄道と、商店街が連携した企画が「こぼろ寺内町ふれあい商店街」だ。2013年10月から始まった。鉄道の車両の入り口に置かれたチラシはクーポン券にもなっていて、商店街で買い物をすると割引などのサービスを受けられる。クーポン利用期間は3カ月。

チラシの裏面は参加店の地図で、観光名所や記念撮影スポットなども記されている。昨年9～11月の5回目の地図は、地元の日高高校の生徒による手書きのイラストになっている。実行委員長で表具師の中村公一さん(29)は、チラシを持った人が目に入れば積極的に声をかけている。「観光地ってそういうもの。お土産屋のおばちゃんがかしやべりかけてくる場所」と笑う。「お客さんを飽きさせないことが大切」と、今年は新たに西本願寺の日高別院でのイベントも構想中だ。「子どもの頃に親に手を引かれて行った夏の祭りの記憶。そういうものが田舎への思い入れにつながると思います」

歴史建築残る寺内町

移動支局の舞台は、紀伊半島のほぼ中央に位置する御坊市。黒潮暖流による温暖な気候に恵まれ、中央を流れる日高川など海・山・川の自然に囲まれている。

歴史的な建物が多く残るのは寺内町。室町時代、浄土真宗などの仏教寺院や道場を中心に形成された自治集落で、江戸末期～明治前期の商家や、大正期の酒蔵などがずらり。町並みを眺めながら歩くとタイムスリッップした感覚だ。

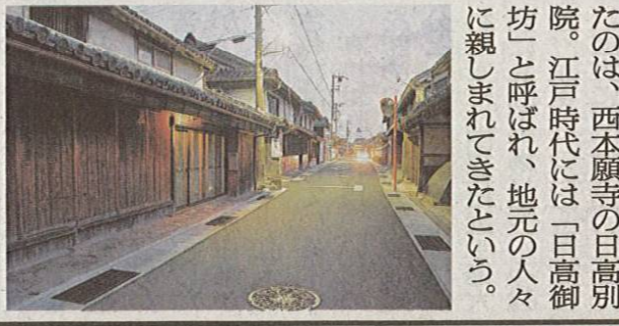
市内は中小企業が多く、麻雀牌や麻雀卓などの製造で全国トップの大洋化学がある。また味噌やしょうゆ作りでも知られる。かつては回船業が盛んで、江戸時代には平野で栽培した大豆などから味噌やしょうゆを作り、江戸に運んでいた。

御坊の名前の由来となったのは、西本願寺の日高別院。江戸時代には「日高御坊」と呼ばれ、地元の人々に親しまれてきたという。



商店街のチラシを手にする坂井和夫さん(左)と中村公一さん＝御坊市

◆御坊市
人口 2万4980人(2014年12月末時点)
面積 43.93平方キロメートル
主な産業 スターチス、カスミソウなどの花卉(かき)栽培やアジ、サバなどの漁業
市長 柏木征夫氏



支局長日記

店先で会話 楽しみたい

揚げ物の香りが漂う精肉店。懐かしのガチャガチャが店頭を遊ぶおもちゃ屋。様々な店頭を眺めて歩いてみると、ふと子どもの頃、シューウィンドーに顔



をくつついて見入った精肉店や、ポケモンカードを夢中で買いに行ったおもちゃ屋を思い出しました。どれも必ず「この間は」とも

！と親しげに会話を弾ませ、道行く知り合いを見つければ車の中からも気軽に声をかけていました。大型スーパーマーケットで買い物する機会が多い。お店の人とゆつくり会話を楽しむ心の余裕も、めっきり減った気がします。移動支局の約1週間、御坊市内を舞台にそんなささやかなぜいたくを満喫したいと思えます。(関口佳代子)

和歌山

加太温泉 大阪屋
和歌山市加太一四二〇七三(四五九)二五一
http://www.hiina.com

和歌山総局 和歌山市七番丁17
〒640-8156
☎ 073(422)2131
fax 073(422)2133
mail: wakayama@asahi.com
橋本支局 ☎ 0736(32)0353
御坊支局 ☎ 0738(22)0374
紀南支局 ☎ 0739(24)2340
新宮支局 ☎ 0735(22)5245